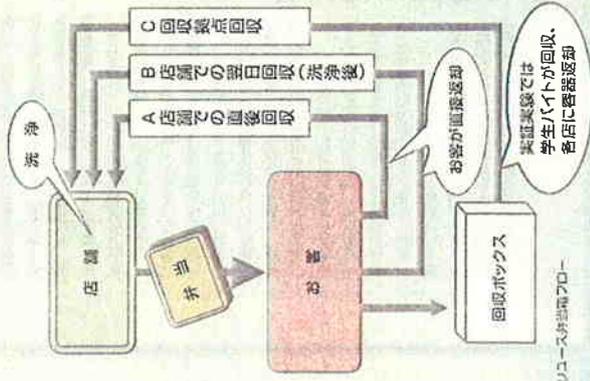


特集 学生の環境保全活動

リユース弁当箱プロジェクト

リユース弁当箱プロジェクトとは…
 大学から排出される一般廃棄物は年間約2,300t、処理費用は約5,500万円です。大学の不燃ごみの多くが、弁当容器と推定されています。この回収後の弁当容器をリユースできるものにしてみようというのがリユース弁当箱プロジェクトです。プロジェクトスタッフが用意した弁当容器を大学周辺店舗の弁当屋さんで回収し、弁当容器を回収し、弁当容器に配布するという仕組みになっています。

実施されたのは2005年ですが、最終報告書が2006年5月にまとまりました。
 参考URL <http://www.reuse-ib.com/>



リユース弁当箱プロジェクトを立ち上げた商学部3年の
 洪 仙希さんにお話を伺いました。

インタビュー(以下、伊): 早稲田大学にはリサイクル弁当容器
 ホッকার(環境サークル「環境ロードリゲス」が開発した紙製の弁
 当容器で、使用後、紙としてリサイクルできるが普及している
 のですが、洪さんが弁当容器のリユースに着目した理由をおき
 かせてください。

洪: ホッকারは弁当箱の中に仕切りができなくて、片ものしか
 できないというのが理由のひとつです。もうひとつはホッকার
 は容器のコストが高くて、早稲田大学生協協同組合は協力して
 くださるのですが、一般のお弁当屋さんには負担になってしま
 うのです。

伊: 企画段階、実行段階でないへんだったことは何でしたか?

洪: 弁当箱を回収して、配るという毎日の運営がたいへんでし
 た。協力してくれるスタッフがもいるのですが、毎日のことで、
 しかもボランティアとなると予想以上にたいへんでした。

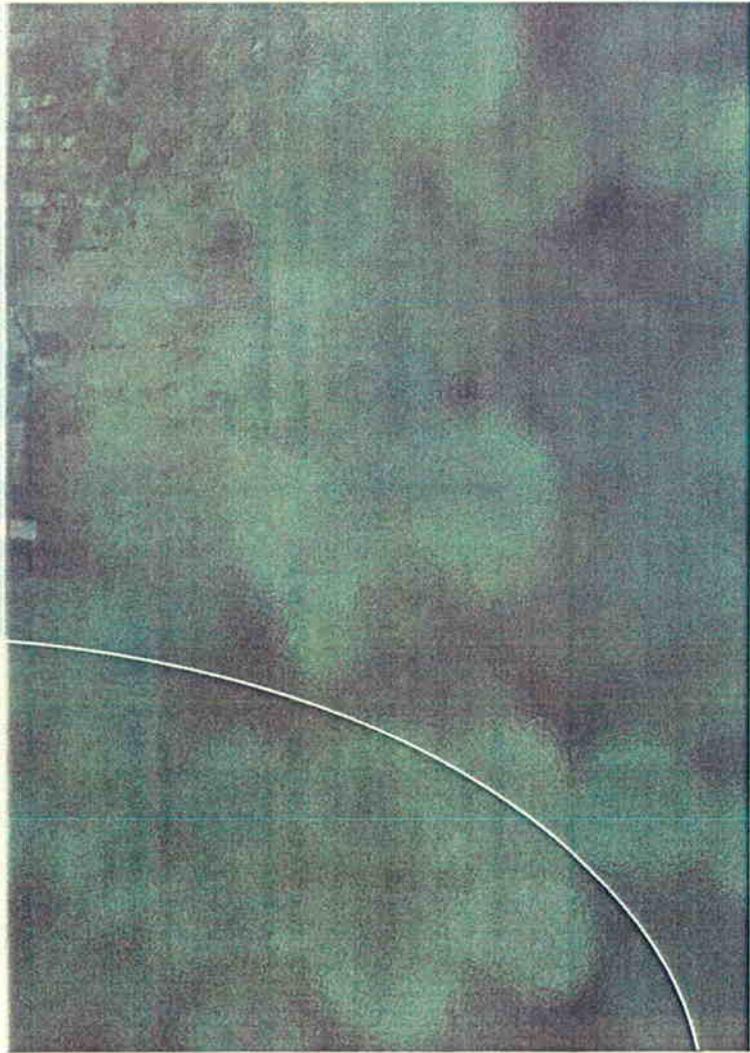
それからお弁当屋さんには弁当箱を洗わなければならず、それ
 が普段の仕事に加わるわけですからたいへんだったと思います。



PROJECT: REUSE



早稲田大学の環境への取り組み

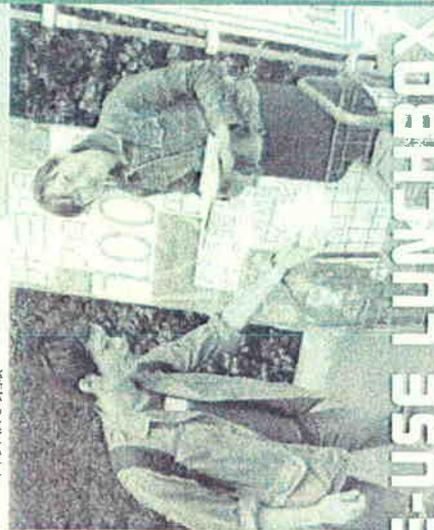


イ：利用者の反響や企画の手ごたえについてはどうでしょうか？
 洪：利用者側のニーズは確実にあると思います。もっと利用してもらうために、協力してくれるお弁当屋さんのPRをすればよかったです。また、わたしがプロジェクトを企画し、実行すると
 いう経緯が初めてのことで、事れていないこともあり、プランを何度も変更したり、実施期間を変更したのですが、それがなければ利用者はもっと多かったと思います。

イ：協力していただきくださったお弁当屋さんは5店舗でしたが、チェーン店の協力はどうでしたか？
 洪：お願いにいったりですが、各店舗レベルで判断できないというところでご協力いただけませんでした。

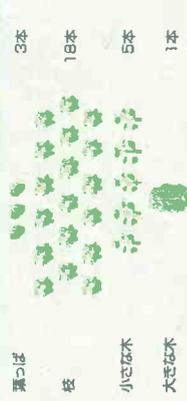
イ：プロジェクトを継続するために必要なことは何でしょうか？
 洪：弁当屋との購入や印刷などの費用は早稲田大学環境総合研究センターの研究費で、運営スタッフはボランティアに頼りました。継続していくためにはこれらを賄う資金が必要です。このプロジェクトにより収益を受ける大学などが負担する必要があると思います。また、一部の非当屋さんだけが協力している状態では不十分で、地域全体を対象としたひとつのシステムとして成立させる必要があると思います。

キャンパスでの取組



リユース弁当箱プロジェクト実施報告(最終報告)
 実施報告期間 10月11日～11月8日(実施21日間)

弁当箱使用数	631個
ごみの減量	11,359kg
ごみ袋の削減量	21.0袋
二酸化炭素削減量	46.65kg
一年間の二酸化炭素の吸収量で算出すると	0.3



※1kgのCO2削減は約10本の木が吸収する量を減らすことに相当する。また、1kgのCO2削減は約10本の木が吸収する量を減らすことに相当する。また、1kgのCO2削減は約10本の木が吸収する量を減らすことに相当する。

種類	削減量	削減率	削減率
紙	11,359kg	100%	100%
プラスチック	21.0袋	100%	100%
ガラス	46.65kg	100%	100%

リユース弁当箱プロジェクト協力店

早稲田ごみ革命

「早稲田ごみ革命」は学生による早稲田大学のごみ削減を改善することを目的としたプロジェクトで、2002年から続いています。

大学のごみのうちリサイクルされているのは約45%。可燃ごみや不燃ごみのごみ種には、きちんと分別すればリサイクルできるものが選べています。

ごみ箱に捨てる段階で分別が徹底できれば、リサイクル量が増え、最終処分場に埋め立てるごみの量が減ります。

では、多くの学生に分別を徹底してもらうにはどうすればいいか？ごみ箱がひとつと分別しやすければいいのでは？

「早稲田ごみ革命」は手始めに分別しやすさを追求することに始まり、開発にあたっては、学生、清掃担当、大学担当、ごみ箱メーカーが集まり、使った、買った、作る側それぞれの立場で検討を行い、「エコ貯金箱」(分別しやすいごみ箱)を開発しました。

現在、「早稲田ごみ革命」を行っている理工学部2年次の藤井 智哉さんにこのプロジェクトの経緯についてお話を伺いました。



藤井 智哉

インタビュー(以下、イ)：「エコ貯金箱」開発の過程でたいへんだったことは何でしょうか？

藤井：実際開発に携わっていたのはほとんどの先輩なんですが、せっかく学生がやるのだから、学生ならではの工夫をとってみたいと考えたと聞いています。データをとって、科学的に根拠のあるものにしよというところがこだわりです。

データをとるといふのは、ごみ箱の中のものを大まかにシートに広げて、ひとつひとつ分別して、重さを量ります。そういう作業はたいへんです。

イ：いろいろなごみ箱の試作を行ってデータをとったのですよね？
 藤井：そうですね、ごみ箱の長さ、色、投入口の形状など条件を変えて、捨てられたごみの分別状況のデータをとったようです。ごみ箱メーカーは安全性、耐久性、コストを考慮して開発していますが、分別しやすさについてのデータをとったことはないとのことでした。ほとんどのデータはごみ箱を開発する上で参考になるとのことでした。

イ：みんなで作ったごみ箱が開発された経緯は？

藤井：やはり分別しやすいと思います。ごみ箱の分別状況の強弱はその後でも継続していき、10%以上は改善されています。たまたま、現在は早稲田ごみ箱が使われた建物にしか設置されていません。今後は、すべてのキャンパスすべての建物に「エコ貯金箱」を設置したいですね。それから早稲田のごみ箱もモデルをいじって開発しているのでも、ぜひこれを設置したいです。それから今後はごみ箱にこだわらず、大学のごみ削減を促していくという観点から、もう少し広がりがある活動をしていきたいと思っています。



屋内用「エコ貯金箱」

環境プロジェクトとは…

環境についてさまざまな視点から考え、身近なところから変えていこうとする団体で、部活でも、同好会でも、委員会でもあり早稲田大学高等学院公認の団体です。現在メンバーは18名。その中で積極的に活動している高等学院 東海林祐子さん（環境プロジェクト代表）、越後さん（高等学院環境運動代表）、飯田 真也さん（早稲田大学高等学院自治委員長）に環境プロジェクトの活動についてお話を伺いました。

インタビュー（以下、イ）：環境プロジェクトの活動の概要について教えてください。

東海林：ひとまずは学院祭（高等学院の学園祭）で、「非木材林紙容器」はサトウキビの殻から作ります。アシ・バガス・竹など木屑を使っていない紙を原料にした容器です。使用後に土に埋めると土に還ります。また学院祭でエコステーションを設置し、分別の徹底をしました。二つ目は地域清掃。三つ目は高校生環境連盟という組織を設立し、その中心的なメンバーとして活動しています。高校生環境連盟では、環境フォーラムを開催し、日頃の取組みや、研究成果の発表、ディスカッションなどを行っています。環境フォーラムでは「打ち水」「スカベンジ（ごみ拾い）」を行っています。四つ目は練馬区「子どもとおとなの環境会議」への出席など学外の様々な催し物に参加しています。

イ：いろいろなことに取り組んでいますね。「非木材紙容器」の分解のようすはどうですか？

東海林：定期的に振り返して、観察しています。分解のプロセスを論文にしたところ、高等学院のコンクールで銀賞をいただきました。また、地質学会高

校生の場で優秀賞をいただきました。



左から東海林さん、飯田さん、真也さん

高等学院環境委員会の活動



イ：それは高い評価ですね。ただ活動をしただけでなく論文としてまとめることに意義がありますね。その他の活動についてなのですが、地域清掃はどのようなものなのですか？

飯田：学院生、教員・父母・商店街の方で協力して、駅から学院までを清掃しています。

イ：「子どもとおとなの環境会議」とはどのような会ですか？

東海林：練馬区の学校や企業などが集まり、それぞれの環境活動を報告しました。中には幼稚園の発表もありたりして、幅広い世代、さまざまな立場からの報告を聴くことができ、とても刺激を受けました。

イ：今後やっていきたいことはどのようなことですか？

東海林：高校生環境連盟の参加校が増えて、活動の幅が広がるといいですね。

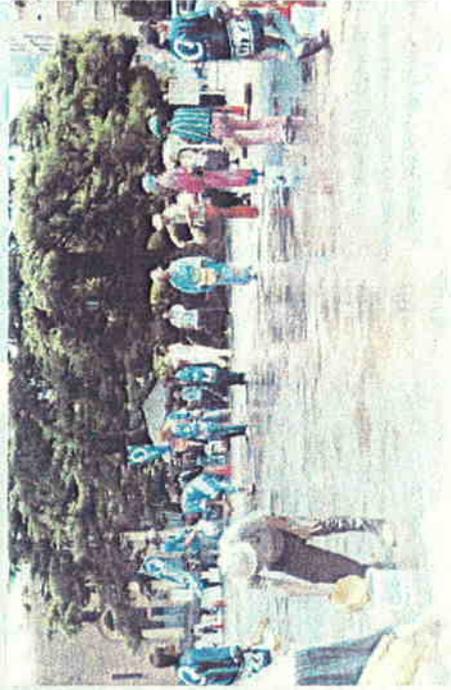
飯田：環境マネジメントシステムにも取り組んでいます。

東海林：学院のごみ箱の整備や節水活動にも取り組みたいです。

その他の学生の活動

早稲田大学には5万人以上の学生と多くの学生サークルがあります。こうした学生のパワーが環境に向けて発揮されるようになっていこう？

例えば、早稲田大学の学園祭「早稲田祭」では、学園祭によって出るごみの減量とリサイクルに努めています。ホッকারは学生サークルが開発したリサイクルできる紙製の弁当容器です。早稲田大学では当たり前のように使われており、全国に広がりつつあります。また、湘南の海岸清掃をする湘南しりぞ、麗く園工コツア、打ち水、環境ビジネスなどの多様な企画を展開しています。



打ち水大作戦

弁当容器「ホッকার」